



2026年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年1月8日

上場会社名 株式会社カンセキ 上場取引所 東
 コード番号 9903 URL <https://www.kanseki.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大田垣 一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 熊澤 達郎 (TEL) 028-659-3112
 経営企画部長
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年2月期第3四半期の業績 (2025年3月1日～2025年11月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
2026年2月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	26,154	△2.3	399	18.6	253	△12.5	212	△21.3
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
2026年2月期第3四半期	円 銭		円 銭					
2025年2月期第3四半期	28.52		28.28					
	36.26		36.02					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年2月期第3四半期	百万円	百万円	%
2025年2月期	25,466	6,371	24.7
	24,276	6,163	25.1

(参考) 自己資本 2026年2月期第3四半期 6,295百万円 2025年2月期 6,097百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年2月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年2月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2026年2月期(予想)	—	0.00	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年2月期の業績予想 (2025年3月1日～2026年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,000	1.2	550	2.1	250	△47.6	150	△71.1	20.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

	2026年2月期3Q	2025年2月期	8,050,000株
② 期末自己株式数	593,922株	2025年2月期	593,922株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	7,456,078株	2025年2月期3Q	7,456,078株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(四半期損益計算書関係)	7
(セグメント情報等)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（2025年3月1日～11月30日）における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や記録的な訪日外国人客によるインバウンド消費が景気を下支えしました。しかしながら長引く物価高騰による消費者の節約志向や為替相場の変動が家計の重荷となっているほか、米国トランプ政権による関税政策の具体化や通商圧力への懸念から、外需の先行き不透明感が一段と強まるなど、依然として予断を許さない状況が続いております。

こうした状況のもと、当社は「住まいと暮らしを豊かにする商品・サービスの提供を通じ、地域社会の生活文化向上に貢献する」というミッションのもと、様々な活動に取り組んでまいりました。当第3四半期累計期間も、高齢者世帯を支える「すまいるサービス」の展開や、環境保全への寄附を伴う商品の販売、職場体験の提供など、地域に根ざした活動を継続いたしました。

営業面では、物価高による節約志向の高まりを背景に、「業務スーパー」における価格訴求力の高い商品群が引き続き堅調に推移いたしました。一方で、当第3四半期累計期間の業績は天候不順の影響を大きく受けることとなりました。3月から5月の10週連続にわたる週末の降雨や6月から8月の記録的な猛暑によりキャンプ用品や釣り具、ペット用品などのアウトドア・レジャー関連商品や日用消耗品の客数が落ち込みました。さらに、9月から10月にかけても異例の残暑により季節商品などの動向が鈍く、消費行動に大きな影響を及ぼすこととなりました。

経費面につきましては、業務効率化や働き方の見直しによる人件費の抑制、費用対効果を精査した販売促進策の展開、および在庫削減による物流効率の向上など、継続的なコスト削減に努めておりました。一方で、今後の安定的な資金調達体制の構築および既存借入金のリファイナンスを目的として、9月にシンジケートローンの再組成を実施し、金融費用が増加することとなりました。

設備面につきましては、3月に「業務スーパーゆいの杜店（栃木県宇都宮市）」、9月に既存のオフハウス併設型店舗として「ハードオフ鹿沼店（栃木県鹿沼市）」、10月に「業務スーパー上三川店（栃木県河内郡上三川町）」を出店いたしました。また、8月には新規フランチャイズ事業として、ホームセンターカンセキ真岡店内にスポーツジム「Life Fitカンセキ真岡店（栃木県真岡市）」を開業いたしました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は、261億54百万円（前年同期比2.3%減）、営業利益は、3億99百万円（前年同期比18.6%増）、経常利益は、2億53百万円（前年同期比12.5%減）、四半期純利益は、2億12百万円（前年同期比21.3%減）となりました。

なお、当社の報告セグメント事業別業績は次の通りです。

[ホームセンター事業]

ホームセンター事業では、MD刷新（切り花等）や夏物商材の拡販により、一定の成果を収めました。9月には西川田店の改装、8月には真岡店内へのスポーツジム「Life Fit」の導入（新規FC事業）を行うなど、店舗の魅力向上と不動産効率の改善を推進いたしました。あわせて、人件費管理の徹底や販促コストの見直しを推進し、経費削減にも注力いたしました。

しかしながら、消費者の節約志向による買い控えに加え、相次ぐ降雨や記録的な猛暑、長引く残暑といった天候不順が客数減少に大きく影響する結果となりました。

これらの結果、ホームセンター事業の営業収益は、107億94百万円（前年同期比6.1%減）、セグメント利益は、2億37百万円（前年同期比6.9%減）となりました。

[WILD-1事業]

WILD-1事業においては、郡山店を含む3店舗への「Foxfireストア」導入や、西川田店への「パタゴニアコーナー」設置により、新規顧客の集客に注力いたしました。また、釣りやキャンプ等の体験型イベントを開催し、多くのお客様にご参加いただきました。商品面では、記録的な猛暑に伴う保冷ボトル等の対策商品や、熊の出没増加を背景とした熊鈴・熊スプレー等の関連商品が好調に推移いたしました。一方で、猛暑や熊の出没が消費者の外出を控える要因となり、キャンプやトレッキング関連商品の売上は伸び悩む結果となりました。費用面では、人件費や宣伝費の抑制、在庫圧縮といったコスト削減策を継続いたしました。

これらの結果、WILD-1事業の営業収益は、63億93百万円（前年同期比6.4%減）、セグメント利益は、1億円（前年同期比183.7%増）となりました。

[専門店事業]

業務スーパーにおいては、生活防衛意識の高まりを背景に、値ごろ感のある商品の販売が好調に推移いたしました。これに加え、新規出店による增收効果もあり、売上高・セグメント利益ともに前第3四半期累計実績を上回りました。なお、2025年3月にオープンした「業務スーパーゆいの杜店（栃木県宇都宮市）」、10月にオープンした「業務スーパー上三川店（栃木県河内郡上三川町）」は、当初計画を上回る好調な推移を見せております。

オフハウス事業においては、記録的な猛暑の影響による買取点数の減少や、これまで好調に推移していた宝飾品売上の一服感に加え、店舗閉鎖による影響もあり、売上高・セグメント利益ともに前第3四半期累計実績を下回る結果となりました。なお、2025年9月にはオフハウス併設型店舗として「ハードオフ鹿沼店（栃木県鹿沼市）」を出店いたしました。

これらの結果、専門店事業の営業収益は、90億74百万円（前年同期比6.2%増）、セグメント利益は、6億66百万円（前年同期比2.2%減）となりました。

[店舗開発事業]

店舗開発事業は、不動産賃貸収入が堅調に推移いたしました。しかし、アミューズメント施設収入は、近隣への競合店出店の影響が続いたため、前第3四半期累計実績を下回る結果となりました。

これらの結果、店舗開発事業の営業収益は、2億58百万円（前年同期比2.4%減）、セグメント利益は、93百万円（前年同期比8.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末における総資産は、254億66百万円となり、前事業年度末に比べ11億89百万円の増加となりました。主な要因としては、商品の増加6億82百万円、有形固定資産の増加4億47百万円によるものであります。

負債は、190億94百万円となり、前事業年度末に比べ9億81百万円の増加となりました。主な要因としては、買掛金の増加5億97百万円、短期借入金及び長期借入金（1年内含む）の増加5億64百万円によるものであります。

純資産は、63億71百万円となり、前事業年度末に比べ2億8百万円の増加となりました。主な要因としては、当第3四半期累計期間において四半期純利益の計上による利益剰余金の増加1億38百万円、その他有価証券評価差額金の増加60百万円によるものであります。この結果、当第3四半期会計期間末における自己資本比率は24.7%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月期の業績予想につきましては、2025年4月10日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2025年11月30日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	812,445	1,004,063
売掛金	858,718	1,177,888
商品	6,461,929	7,144,584
貯蔵品	16,851	15,377
その他	809,852	335,252
貸倒引当金	△61	△168
流动資産合計	8,959,735	9,676,998
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,552,971	2,856,192
土地	7,204,479	7,204,479
その他（純額）	727,455	871,366
有形固定資産合計	10,484,906	10,932,038
無形固定資産	411,642	447,769
投資その他の資産		
投資有価証券	2,566,309	2,675,404
敷金及び保証金	1,779,899	1,671,822
その他	68,617	60,086
投資その他の資産合計	4,414,826	4,407,314
固定資産合計	15,311,376	15,787,122
繰延資産	5,623	2,275
資産合計	24,276,735	25,466,396
負債の部		
流动負債		
買掛金	2,645,923	3,243,465
電子記録債務	1,161,034	1,249,289
短期借入金	4,250,000	4,790,000
1年内返済予定の長期借入金	5,264,434	1,517,605
1年内償還予定の社債	100,000	500,000
未払法人税等	68,426	50,639
賞与引当金	—	65,961
ポイント引当金	4,442	—
契約負債	424,271	416,365
資産除去債務	—	29,374
その他	823,963	605,780
流动負債合計	14,742,496	12,468,480
固定負債		
社債	500,000	—
長期借入金	1,605,210	5,376,126
退職給付引当金	473,617	429,463
資産除去債務	297,702	292,401
その他	493,981	528,028
固定負債合計	3,370,510	6,626,019
負債合計	18,113,007	19,094,500

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2025年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資金	1,926,000	1,926,000
資本剰余金	2,448,680	2,448,680
利益剰余金	1,054,351	1,192,468
自己株式	△389,287	△389,287
株主資本合計	5,039,743	5,177,861
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,057,641	1,117,838
評価・換算差額等合計	1,057,641	1,117,838
新株予約権	66,343	76,196
純資産合計	6,163,728	6,371,896
負債純資産合計	24,276,735	25,466,396

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
売上高	26,763,592	26,154,985
売上原価	19,488,199	19,015,358
売上総利益	7,275,392	7,139,627
営業収入	380,822	371,960
営業総利益	7,656,215	7,511,587
販売費及び一般管理費	7,319,131	7,111,871
営業利益	337,083	399,716
営業外収益		
受取利息及び配当金	46,322	55,608
補助金収入	14,415	21,252
受取保険金	5,146	4,661
その他	5,823	5,182
営業外収益合計	71,708	86,705
営業外費用		
支払利息	93,062	127,399
支払手数料	19,040	104,128
その他	6,956	1,408
営業外費用合計	119,059	232,936
経常利益	289,732	253,484
特別利益		
固定資産売却益	369	-
特別利益合計	369	-
特別損失		
固定資産除却損	2,189	3,605
特別損失合計	2,189	3,605
税引前四半期純利益	287,912	249,879
法人税、住民税及び事業税	25,406	36,557
法人税等調整額	△7,862	643
法人税等合計	17,544	37,200
四半期純利益	270,367	212,678

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

前第3四半期累計期間（自 2024年3月1日 至 2024年11月30日）

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間（自 2025年3月1日 至 2025年11月30日）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	ホームセンター	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	11,500,220	6,828,406	8,544,688	265,472	27,138,787	5,626	27,144,414	—	27,144,414
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	11,500,220	6,828,406	8,544,688	265,472	27,138,787	5,626	27,144,414	—	27,144,414
セグメント利益	254,663	35,426	680,737	102,120	1,072,947	5,626	1,078,574	△741,490	337,083

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない不動産事業等に伴い発生した付随的な収益であります。

2 セグメント利益の調整額△741,490千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△741,490千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	ホームセンター	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	10,794,787	6,393,383	9,074,429	258,983	26,521,583	5,362	26,526,945	—	26,526,945
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	10,794,787	6,393,383	9,074,429	258,983	26,521,583	5,362	26,526,945	—	26,526,945
セグメント利益	237,096	100,510	666,027	93,090	1,096,725	5,362	1,102,088	△702,371	399,716

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない不動産事業等に伴い発生した付随的な収益であります。

2 セグメント利益の調整額△702,371千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△702,371千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	357,262千円	338,660千円